

浴用ミルクの新処方

ジャパンビューティが提案

デリケートゾーンケアに

化粧品OEM/ODMのジャパンビューティプロダクツ(東京都中央区銀座、高木正好社長)はこのほど、新処方「フェムケアバスミルク」を開発、OEM/ODM提案を開始した。

同製品は、乳白色のお湯に変化するミルクタイプの入浴剤で、日々の入浴時間を女性のゆらぎに寄り添うケアの時間として提案する処方。フェムケア市場の拡大を背景に、洗う・塗るに加え、「入浴」でデリケートゾーンケアを行う新たな提案として展開する。フェ

ムケアラインへの入浴剤追加や、天然由来成分100%処方を生かした商品開発、新カテゴリーによる差別化を図りたいブランドなどをターゲットとしている。

同社では、既存のフェムケア製品は洗浄や保湿を中心としたアイテムが主流である一方、入浴カテゴリーは未開拓の領域と位置付ける。また、近年はバスミルク市場においても「温まる」だけでなく、肌を整えるスキンケアとしての価値が高まりつつあり、フェムケアの日常化とバスミルクのス

キムケア化が交差する新たな市場を見据えた提案としている。

処方特長は、乳白色のお湯による使用感、セラニウム精油を配合したフローラルクリーンの香り、入浴中はしっとりとしたうるおいを与えながら、湯上がり後はべたつきにくい保湿設計の3点。天然由来成分100%処方を採用し、石油系界面

活性剤を使用しないフリー処方にも対応。ナチュラル志向やクリーンビューティブランド向けのOEM提案にも適しているとする。

なお、同社ではフェムケアバスミルクに加え、弱酸性・低刺激のフェムケアウォッシュ(泡ボディソープ、フェムケアミルクホディミルク)、フェムケアミスト(き取りミスト)も展開しており、シリーズでのOEM/ODM提案にも対応。ブランドコンセプトに合わせた香りのカスタマイズなども相談可能としている。